

# 21世紀型スキルを育む保育「プロジェクト・アクティビティ」

—子どもたちが社会にはばたく約20年先を見据えて—

株式会社コビーアンドアソシエイツ 経営企画部 広報担当 中林 圭子

キーワード：アクティブ・ラーニング、プロジェクト・アクティビティ、保育園

## 実践の概要

約70年の保育経験を持つ保育事業者として、今年度、「非認知能力」や「21世紀型スキル」を育むプログラムをアクティブ・ラーニングの手法を用いた「プロジェクト・アクティビティ」を開発し、運営園の4・5歳児が参加するサマーキャンプに盛り込んだ。

### 1. 目的・目標

#### 表題

私どもの運営園では、毎年夏に4・5歳児を対象とした大自然の中で行う1泊2日のお泊り保育「COBY SUMMER ADVENTURE (以下、CSA)」を実施している。私たちは、この機会を単なる「保育園のお泊り会」としてとらえるのではなく、グローバル化、情報化とともに働く環境が目覚ましく変化する将来において必要とされる「非認知能力(注1)」や「21世紀型スキル(注2)」を育むための絶好の機会とし、今年度よりアクティブ・ラーニングを実践する独自の「プロジェクト・アクティビティ」を開発し、完全プログラム化した。

(注1) 学力テストなどで計測できる認知能力とは異なり、「忍耐力がある」「社会性がある」といった人間の気質や性格に関する能力。自信、忍耐力、自制心、意欲、リーダーシップ、社会性、柔軟性、創意工夫、誠実さなどがある。

(注2) グローバル化、情報化とともに働く環境が目覚ましく変化する将来において必要とされる高度なスキルとして、先進国各国で研究が進められている。これらは思考パターン、協働の手法、ICTを含む道具を使いこなす力、モラルと教養といった4つに分類されている。

### 2. 実践内容

### 2.1 プロジェクト・アクティビティ

プロジェクト・アクティビティは、自ら考え解決方法を探る「主体性」、チームでの活動を通じ協力する大切さや役割を果たしてチームに貢献する嬉しさ、イノベーションが起こって新たな発見が生まれる面白さなどを経験する「協働」、他の園の園児や保育士、現地のスタッフなど多様な他者との関わりを体験する「他者とのコミュニケーション」、道具を使うことでできることが広がるという実体験を味わえる、ICT機器を中心とした「道具の活用」という4つのキーワードを元に構築している。また、マウントキング・グレートやマウントレンジャーといったキャラクターを活用し興味を高め、楽しめる世界観を創出することで子どもたちの自主性を引き出した。具体的な活動としては、子どもたちがいくつかのチームを形成し、数あるミッションから子どもたち自身が取り組むアクティビティを決めていく。決めるにあたって自分やお友だちの興味だけでなく、混雑状況、天候、会場までの距離や残り時間など、あらゆる情報を集め、ICT機器を含む様々なツールを活用して総合的に考えいく。

この他、各アクティビティの中にも4つのキーワードに関わるものがあり、例えばトレジャーハンティング (AR体験) では、少人数のチームに分かれ、現地スタッフや他園の保育士など様々な他者から情報収集し、広い高原の中からお友だちと協力して宝箱を見つけ出し、3つの宝箱に入った3つのパーツを1つのパネルにはめ込んでiPadにかざすとARでスペシャル動画がもらえるという体験を盛り込んだほか、自由自在に飛ぶドローンを追いかけて芝滑りのスポットを目指したグラスライダー、子どもたちが大自然の中で採取した葉っぱや枝などの自然物や撮影した写真を素材に、20m以上の大きな

#### 【CSA内容】

●目標/圧倒的な大自然の中で子どもたちの知的な好奇心、冒険心、チャレンジマインドを引き出し、夢中になって遊ぶプロセスの中で、非認知能力を伸ばし、21世紀型スキルを学ぶ。

●タイムスケジュール/全体時間：奥日光を中心とするかたしな高原にて1泊2日

Day① 6:20~7:20/各園で集合・バスで出発 9:30~10:30/現地到着 9:30~13:00/メインミッション(戦場ヶ原トレッキング・昼食、魚のつかみ取り、おやつ)、サブミッション(トレジャーハンティング、フォトセッション、ドローンとグラスライダー、ボルダリング、ターザンロープ) 18:30/夕食 19:15/コビースターナイトフェス 20:00/入浴 21:30/就寝

Day② 6:30/起床 7:00/体操・散策 8:00/朝食 8:30~12:00/メインミッション(野菜収穫体験、ネイチャークラフト)、サブミッション(トレジャーハンティング、フォトセッション、ドローンとグラスライダー、ボルダリング、ターザンロープ) 12:00/昼食 12:00/fun fun CSA2017finale 13:30/現地出発 17:00/各園到着・解散式

※メインミッションは、全園共通で行い、サブミッションは子どもたち自身が選び、園ごとに行う。

●展開/A日程：平成29年8月28日~29日 B日程：8月30日~31日

児童数：認可保育園コビープリスクールズ16園の4・5歳児 計約600名 引率・遠泳スタッフ 計約100名

紙の上にアートを作り出す、ネイチャークラフトなどを行った。



写真1 トレジャーハンティング (AR 体験)

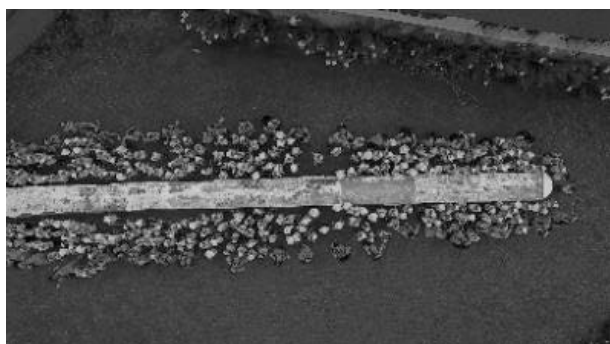


写真2 ネイチャークラフト (ドローンで撮影)

## 2.2 ICT 活用の目的とねらい

プロジェクト・アクティビティを通じ育みたい 21 世紀型スキルには、ICT を含む道具を使いこなす力が含まれる。現代の子どもたちにとって、ICT は生まれながらにごく自然に、身近に存在する。ICT 機器がただの玩具として刷り込まれる前に幼児期の段階で、何かを創造、集約、発表し、新たな価値を作り出す便利な道具であることを実体験として学んでほしいという思いから、活動の中に ICT 機器を取り入れている。活動は、従来の保育活動の置き換えではなく、従来の活動にプラスする、また掛け合わせることで、さらなる学びが得られるよう工夫している。

また、乳幼児だからこそ ICT 機器の有用性を実体験の中で学ぶことの重要性を保護者等を含め広く知ってもらい理解を促す目的で、そのねらいを毎月運営園の利用者全世帯に配布する園だよりや YouTube を活用し動画メッセージ等で繰り返し伝えた。園だよりでは AR を活用し、CSA



図1 園だより特集ページ

ロゴにスマートデバイスをかざすと活動内容をまとめた動画を視聴できるように設計した。また CSA 専用 Facebook を開設し、CSA に向けた準備から、期間中は活動内容をオンタイムで広く伝えた。

## 3. 成果

CSA に出発するバスの中では、初めて親元を離れて夜を過ごす子も多く、不安から涙する子もいたが、バスの中でマウントキング・グレートから CSA への歓迎の言葉や冒険の課題がビデオレターで届くと徐々に CSA の世界観に引き込まれ、様々な課題に夢中で挑戦するうちに心細さも吹き飛び、目をきらきらと輝かせ参加していた。トレジャーハンティングでは、広い高原の中からお友だちと協力して宝箱を見つけ出すと、達成した自信にみなぎる表情を浮かべていた。プログラム最後には皆で冒険を振り返り一緒にダンスをしたが、感動の涙を流し「まだ帰りたくない!」と多数声があがっていた。帰園後は保護者の方に、いくら話しても話し足り無いというほど夢中になって 2 日間の出来事を自慢そうに話す子どもたちの姿があった。

一方で保護者には専用 Facebook で活動の様子をリアルタイム配信し、期間中 1 万以上のポジティブなリアクションが集まった。



写真3 感動に涙する子どもたち

## 4. 今後に向けて

指導者側の ICT 等の活用に関する苦手意識の解消、有効性への気づきを促すため、今回は、AR やドローンの導入、撮影等も社内で行った。

激変する教育環境において、指導者側が専門性を常にアップデートするのを感じている。実践の中からそういったものをキャッチアップしやすい環境整備を社内全体で行っていくとともに、指導者の資質や経験値に左右されない細やかな指導計画作りを心がけていきたい。

子どもたちが社会に出る 20 年先を見据え、子どもたちの未来を生き抜く力を育てる保育の実践に向け、邁進したい。